

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくす人権尊重の精神を養い、一人一人が互いに認め合い、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「やさしく さとく たくましく 共に輝く大みかっ子の育成」を教育目標として掲げている。学校教育全体を通して人権尊重の精神を高め、差別や偏見をもたずに誰に対しても公平にふるまう生活態度を育てるため学校を挙げて取り組んでいる。また、各教科・道徳・特別活動等の特質に応じた教育活動全体を通して、人権が尊重され安心して過ごせる学校・教室を目指し、地域の教育力の活用や体験的な活動の導入、学習形態の工夫に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり、思いやりのある言動が多く見られる。しかし、自己中心的な行動や他者の考えや気持ちを受け入れられず思いやりに欠けた言動をする児童もいる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が互いを認め合い、思いやりの心をもって助け合うことのできる児童の育成を図るため本主題として設定した。

(2) 研究の内容

ア 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活動全体における人権教育の充実

イ 豊かな体験活動の展開

2 実践内容

(1) 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活動全体における人権教育の充実

ア 情報モラル講習会

1～3年生・4～6年生と保護者が参加した情報モラル講習会を行った。スマートフォンやインターネットによる人権侵害やトラブル等の事例をもとに、どう行動すればよいのか親子で学習した。保護者のための講習会では、「スマホを持たせるための約束事をしっかり決めたい」と我が子がインターネットによる被害に巻き込まれないようにと願う保護者の声を聞くことができた。



イ 特別活動や外国語活動、総合的な学習の時間等の実践

(ア)「レッツ トライ ボランティア」(4年生)

高齢者や体の不自由な人の生活について学び、「自分たちができるボランティアは何か」を考えた。そして、手話の紹介や点字の絵本作り、ワクチンを求める費用となるペットボトルのキャップやプルタブ集め等、様々な学習活動に取り組んだ。



(イ) 外国語活動

全学年で行っている外国語活動では、外国語の学習を通して、その言葉や文化について体験的に理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。

ウ 帰りの会での友達への称賛

帰りの会では、各学年が実態に応じ、「良かったお友達」など、友達の良かったところや頑張ったところを発表する時間を設定しており、児童達にも好評である。

エ 全校集会

例年、「1年生を迎える集会」「4年生を励ます会」「6年生激励会」等の集会活動を通して、相手の頑張りを励まし合ったり、互いに仲良くしたりして、児童同士の相互理解を深めているが、今年は、コロナウィルスのために実施できなかった。

オ 異学年集団との交流（縦割り遊び）

毎月第3木曜日のロングの昼休みを利用し縦割り遊びを実施している。6年生を中心に、異学年のメンバーが仲よく活動する姿が見られた。上級生も下級生も互いによい影響を与えている。

カ あいさつ運動

全学年であいさつ運動に取り組んでいる。あいさつ運動を通して、気持ちのよいあいさつへの関心は高まっている。自分から挨拶をする児童が増えている。また、立哨指導の保護者の方への挨拶も励行している。



キ 募金活動

全学年で、赤い羽根共同募金活動に取り組んだ。今年度も、自分たちの住む町のために多くの募金が集まった。

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 読書週間

本校では「年間一人50冊を読もう」の目標を掲げ取り組んでいる。図書館教育主任が中心となってアイデアを出し、児童の読書への関心・意欲が高まるようなイベントを例年企画している。今年度は、感染症予防のため学級単位での取り組みが主となったが、多くの児童が図書館を利用し、50冊以上の読書を達成した。



イ 大みか交流センター敬老会

例年9月に行われている大みか交流センター敬老会には、3年生の児童が参加し、音楽の発表を行って地域の方と交流している。児童が書いた地域の方々に贈る手紙も、地域の方にたいへん喜ばれているのだが、今年は、コロナウィルスのために敬老会は中止となり、まことに残念であった。

ウ 愛校作業

皆遊タイム（ロングの昼休み）を利用し、校庭の清掃や花壇の手入れを行っている。学年単位で活動を分担している。自分たちの学校をきれいにしようと協力する姿が見られた。季節ごとに色とりどりの花を咲かせる活動は、児童の情操教育に大きな効果があった。



3 成果

様々な活動を通して、児童は自分の大切さと他の人の大切さについて学ぶことができた。今年度は、感染症予防のために多くの行事や交流会が中止になってしまったが、例年、異学年や地域の人々との交流、外部講師による講話等は、他者のことを考えるよい機会となっている。児童達は、少ない活動の中でも多くの成果を得ているものと思考するものである

II 今後の課題

- ・人権について考える場や体験活動を更に充実させて、自己や他者を大切にする人権感覚を育て、日々の学校生活の中で実践できる児童の育成を図っていきたい。
- ・家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域が一体となり人権教育に取り組めるように努めたい。